



プロをめざす
自ら道を切り開く

ずっとバレーボールをやってきて、はじめて世界大会に出場したときに、世界とのレベルの差を感じました。選手としてのレベルをあげたいと思い、プロに転向することを決意しました。

プロになって実感したのは、自分次第で道は切り開くことができるし、妥協すればそのレベルでとどまるだけということ。

できることからはじめ、毎日少しずつ成長していくことができれば、新しい自分を見つけることができる環境へと周囲も変化していきます。

今振り返ってもすごく良い選択だったと思います。

高校生
失敗を恐れない

高校3年生でプロとしてデビューした当初は、すごく緊張したことしか覚えていないです。

ただ、その試合で失敗したらどうしようとかいう感情はありませんでした。「やれることは決まっているからできることを全うする」、「自分の力が通じるか通じないかだけだ」と思っていたので、本当にシンプルに戦いました。

同級生にも活躍をほめられてうれしかったです。先生に邪魔にならないならと許可をいただき、一番仲がいい友だちと授業中にトレーニングをしたことなど楽しい思い出がたくさんあります。



夢
昨日の自分を超える

「バレーボールはもっとうまくなれる」と自分自身で強く思いながら努力をつづけています。昨日の自分を超えることを目標にすると、自分のやらないといけないことが明確化されます。

今取り組んでいること、これから挑戦することに誠実に日々を積み重ねることで、必ずこれから先の人生が変わっていきます。

いつも支えてくれている家族や仲間は自分のモチベーションの原動力であり、本当に感謝しています。



Create tomorrow
明日をつくる

「未来を切り開くのは自分自身、」

逆境をバネに最高到達点をめざす
大阪ブルテオンの西田有志選手(バレーボール男子日本代表)に
今、伝えたいことを聞きました。



とにかく自分のやりたいことに
夢中になって日々成長する自分を
楽しんでください!!

にしだ ゆうじ
西田 有志選手

2000年1月30日生まれ、三重県出身。ポジションはオポジット。
身長186cmで最高到達点は350cm。



兄と姉の影響で幼稚園の頃からバレーボールをはじめた。
強豪校への誘いを受けながらも、高校は地元で進学。
17歳のとき、第11回アジアユース男子選手権大会(U-19日本代表)に選出され、大会では優勝を果たした。
2021年の東京オリンピックではベスト8入りを果たし、2024年のパリオリンピックでは4試合でチーム最多の81得点をあげるなど、若きエースとして活躍する。

